

課	新規 別 継続	継続	経常・特別別	経常	担	開 発 箇 所	期 間	昭和 60 年度 — 昭和 62 年度	予 算 科 目	技 術 開 発	経 費	品 名	数 量	単 価	金 額
			目標との関連	エー工										円	千円
題	林地除草剤の抑制効果について (サイトロソノ微粒剤)				当	造林課	内之浦				物件費	調査用品			
目	薬剤による下刈作業における投資効果と比較しながら、除草効果による薬剤の使用量及び作業内容の究明をはかる。										役務費	現像、その他			
的											人件費	(基礎時)	() 16		()
												計	—	16	()
全 体 計 画		実 施 経 過		当 年 度 分											
				実 施 計 画			実 施 結 果			評価および普及計画					
1. 試験地設定 (1) 薬剤散布区設定 (2) 人刈(2回刈)区設定		1. 試験地設定 0.12HAを単位とする試験地 6箇所0.72HAを設定		1. 試験地設定 (1) 薬剤散布区設定 (2) 人刈(2回刈)区設定			1. 薬剤量と少く刈の場合、散布技術 の熟練を要する。								
2. 薬量による効果の比較 追跡調査		2. 調査項目 (1) 散布量による効果の比較 (2) 散布時期による効果比較 (3) 人刈2回刈との比較		2. 薬量による効果の比較 追跡調査			2. 散布時期がおくほど程効果がす。								
3. 調査事項 (1) 植生推移調査		3. 調査内容 6箇所試験地内のクスを 10本選定し散布後及び刈払後の 状況を追跡調査。		3. 調査事項 (1) 植生推移調査			3. クス処理主体の林分では散布時期 は早い程効果的である。								
							4. 下刈作業全体からみた場合 早い時期の散布地では雑草の木 の再発生がみられ、今後の検討 を要する。								

(様式4)〜/

課題

林地除草剤の抑制効果について(サイトロン微粒剤)

1. 散布時期のちがいにについて

- (1) 昭和60年5月10日 HA当り50kg及100kgを既設定試験区に散布実施。同日、下刈(2回刈)を以て第1回目下刈実施。→7月10日2回目実施。
- (2) " 60年6月10日 HA当り50kg及100kgを既設定試験区に散布実施。同日下刈(2回刈)を以て第1回目下刈実施。→8月9日2回目実施。

2. 散布量のちがいにについて

- (1) HA当り50kg散布区2箇所設定
- (2) HA当り100kg散布区2箇所設定

3. 人力2回刈との対比を及ぼすため

- (1) 人力2回刈区2箇所設定

4. クズの枯損状況について

50kg 散布区	5月10日 実施箇所	80%
"	6月10日 "	50%
100kg 散布区	5月10日 実施箇所	90%
"	6月10日 "	80%

5. 各作業毎の工程 (HA当りの人工数)

50kg 散布	5月10日	5.1人	
"	6月10日	5.6人	
100kg 散布	5月10日	3.7人	
"	6月10日	4.1人	
人力2回刈	5月10日	4.6人	7月10日 3.9人
"	6月10日	3.2人	8月9日 6.0人

6. 考察

クズの制圧を最優先課題と考へ、早い時期に散布時期を設定した結果、目的どおりの効果をみる事が出来た。
 使用薬量については、半分の50kgの場合でも時期さえ選べば充分効果が上がる。
 今後は、下刈後の併行する切を計画し、残存個体の完全制圧を計りたい。

記載要領

- 1. 調査結果及び考察を記入する。
- 2. 状況写真は別途整理する。

状 況 写 真

区分 任意

内之浦 営林署

(様式.6)

※ 写真についてはスライド用として撮影したため、状況写真としては別に撮影せず。
一部あるものについて説明を付して添付。



試験地全景

写真中央は人力刈実施後12日目の様子。
向かって左側 50kg/HA 右側 100kg/HA 実施後12日目。



写真中説明通り。

中央の竹杭は、木の枯損状況調査の為10本設定した状態。

状 況 写 真

区 分 任 意

内之浦

営林署

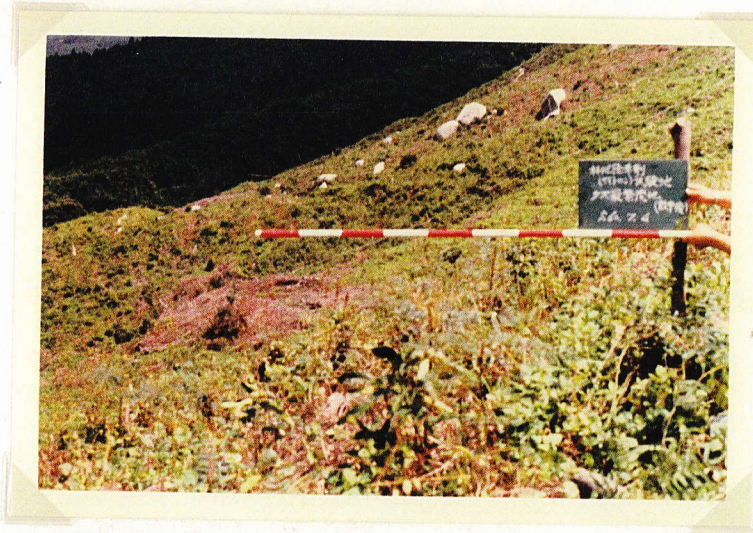
(様 式 6)



5月21日
クズを主とした雑草の繁茂状態



6月10日
クズが完全に広がり 造林木はほとんど見えない。



ザイトロン散布後の状況。
クズはちろん、カラスザンショ等、新葉が枯れた様子がうかがえる。

昭和61年度 技術開発実施報告書

熊本営林局

(任意課題)

課 題	新規 別 継続	継 続	経常・特別別	経 常	担 当 課	開 発 箇 所	対 馬 期 間	昭 和 60 年 度 ～ 昭 和 62 年 度	予 算 科 目	造 林 費 (育 林)	経 費	品 名	数 量	単 価	金 額
			目標との関連	2 ～ エ							物 件 費	調 査 用 品		円	円
目 的	林地除草剤の抑制効果について(ザイトロン フレノツク微粒剤)		薬剤による地拵, 下刈, つる切作業における投資効果を比較しながら, 除草効果による薬剤の 使用量及び作業内容の究明をはかる。								役 務 費	現像, その他			～
											人 件 費	(基 職) 臨 時	()		(~) (~)
											計	～			(~) (~)
全 体 計 画		実 施 経 過		当 年			度								
				実 施 計 画		実 施 結 果		評 価 お よ び 普 及 計 画							
1. 試験地設定 (1) 薬剤散布設定 (2) 無散布区設定 2. 植生別の薬剤効果 (1) 追跡調査 3. 調査事項 (1) 植生推移調査 (2) 造林木生長量調査		1. 対馬営林署 (1) 試験地設定(昭和60年度) ア 場所 豆酩竜良山国有林28ほ林 小班内 イ 面積 0.20ha ウ 薬剤散布 …… 請負実行 (2) 調査事項 ア 生長量調査 イ 植生調査 ウ 薬害調査 2. 内之浦営林署 (1) 試験地設定(昭和60年度) ア 場所 国見平国有林 8わ林小班 イ 面積 0.12ha× 6箇所=0.72ha (2) 調査事項 ア 散布量による効果の比較 イ 散布時期による効果の比較 ウ 人力 2回刈との比較 エ クズの追跡調査		1. 対馬営林署 (1) 調査事項 ア 生長量調査 イ 植生推移調査 ウ 競合状況調査 エ 薬害調査 2. 内之浦営林署 (1) 調査事項 ア 散布量による効果の比較 イ 散布時期による効果の比較 ウ 人力 2回刈との比較 エ クズ再発生による薬剤との比 較 上記について追跡調査を行う。			1. 対馬営林署 (1) 調査事項 ア 生長量調査 イ 植生推移調査 ウ 競合状況調査 エ 薬害調査 2. 内之浦営林署 (1) 調査事項 ア 薬効調査 イ 散布時期別調査 ウ 人力 2回との比較の追跡調査								